

オランダ・ハーグの官庁街を見下ろす高層ビルの一室。オランダ産業連盟・経営者連合のファンデルブーク顧問

は、欧州のほか、日本や米国など世界各地からの来客の応対に忙殺されていた。

政労使が紳士協定

「カギは政労使の信頼関係

大欧州

をどうつくるか」「競争を重視する米国とは違います」

「オランダに学べ」が欧州各国で合言葉になっている。

九七年の経済成長率は欧州連合(EU)で二位、失業率は

五%前後とEU平均の約半分。「十六年の試行錯誤がよ

うやく実を結んだというだけなのだが」氏は、秘密を

聞きたがる訪問客のラッ

超先端の司祭たち

ユに苦笑する。

オランダに「奇跡」をもたらす女神の役割を果たしたと言われるのが、一九八二年十一月、当時の政労使トップが

秘密交渉を重ねてまとめた「ワッセナー合意」と呼ばれ

◆世界は神が造った。オランダはオランダ人が造った。オランダの言い伝え。同国の思想家、エラスムスの言葉との説もある

家があったハーグ郊外の地名を取ってワッセナー合意と名付けられた。

この枠組みは、様々な形で具体的な成果を出している。

「賃上げ要求の上限は三・五%に抑える」。今春の賃上げ交渉では労組側が「インフ

レ二%、生産性向上三%で五%の賃上げ余地がある」との試算にもかかわらず、要求水準をぐんと低くした。こうし

た配慮は組合員の間では当然のように受け止められてい

る。賃上げ抑え職業訓練代わり、労働者は充実した職業訓練の機会を得る。

賃上げ抑え職業訓練

オランダの企業をのぞくと、長い間、職のなかつた人

たちが懸命に新しい仕事に慣れようと訓練を受けている姿をよく目にす。

長期間、失業していた人を雇い入れた場合、企業は政府の補助金を得て、職場での技術指導などにあてることができ

る。対象となった労働者の四分の三は、そのまま職場に定着す

るという実績を出している。前雇用の名前をとって「メルケルト・ジョブ」と呼ばれるこの仕組みは、ブレア英政権がそっくりまねて今年から導入した。

また、企業は従業員を解雇する場

合には、職業訓練の機会を与えることを求められる。敗者は出さず、社会全体の利益を優先する発想だ。



経済好調でオランダへの関心が高まっている(アムステルダム)

敗者出さず経済再建

スミス・ローザンヌのビジネススクール、IMDは今年、国別競争力番付でオランダを欧州トップの四位にした。社会の魅力を高める国が二十一世紀に生き残る。IMDの

ガレリ教授は世界四十六カ国から集めたマクロデータや四千人を超える企業幹部から寄せられたアンケートの回答を前に、こう結論を出した。

雇用創出導く教育

教授が目を付けたのが教育システム。オランダの大学は

独逸刊誌「シュピーゲル」の欧州大学調査で各分野で上位に顔を出すなど優れた研究施設や教授陣を誇る。これに「原則

入試なし」という開放性があり、大学進学率は世界でも

トップクラスだ。「開かれた教育はそのまま人の潜在能力を高めることにつながる(カ

レリ教授)。人の能力アップが雇用創出に結びつく。

八二年のワッセナー合意で労組代表として異例の資金抑制を受け入れたのがコック

現首相。「理想家というより経理係」とも評される味味な首相の持論は「だれ一人とし

て落ちこぼれを許すわけにはいかない」。そんな発言が国民の心を打ち、絶大な人気につながっている。

そうした考え方は、巨万の富を築いた兩人らが国づくりを主導し、絶対権力を嫌って

きた歴史に根差している。十五世紀に国土を広げるために

進めた堤防造りの際も、住民の総意で建設計画を立て、資金も皆で出した。

人口千五百万人の小国、米

国のように敗者を次々に出し

ながら経済を強くしていく余裕はない。そんな条件から編

み出された「オランダ・モデル」は、「欧州発」の新しい

成長モデルとして、ほかの欧州各国にも影響を与えつつあ

る。

第2部おわり

大欧州取材班は、実哲也、三科清一郎、丸山兼也、井口哲也、片山哲哉、住谷忠雄、鈴木亮加藤秀史で構成した。